

令和4年5月23日（月）

教育委員会事務局文化財課

担当者 多知、安

内 線 5626、5625

直 通 076(225)1844

## 重要文化財の指定について

令和4年5月20日（金）の国の「文化審議会」（会長 さとう まこと 佐藤 信）において、文部科学大臣から諮問のあった下記の案件の文化財指定が審議され、答申された。今回の答申どおり指定されれば、県内の国指定重要文化財（建造物）は47件となる。

## 記

### ○重要文化財（建造物）

名 称	<small>なかたにけじゅうたく</small> 中谷家住宅 <small>おもや はなれざしき どぞう ほうこうにんべや ひがしべい しょうめんもん</small> 主屋、離座敷、土蔵、奉公人部屋及び東塀、正面門
所 在 地	能登町字黒川28号130番地 他

なかたにけじゅうたく  
中谷家住宅

名 称 中谷家住宅

おもや はなれざしき どぞう ほうこうにんべや ひがしべい しょうめんもん  
主屋、離座敷、土蔵、奉公人部屋及び東塀、正面門 5棟

所在地 能登町字黒川28号130番地 他

所有者 個人

構造形式  
及び  
建築年代

- ・主 屋：桁行 23.8m、梁間 13.7m、切妻造、一階建(一部二階)、平入、棧瓦葺、享保 6 年(1721)
- ・離座敷：桁行 3.6m、梁間 7.3m、切妻造、一階建、棧瓦葺、江戸時代末(推定)
- ・土 蔵：桁行 9.2m(塗蔵)・5.4m(道具蔵・布団蔵)、梁間 5.5m、土蔵造、切妻造、二階建、棧瓦葺、明治 8 年頃(1875)
- ・奉公人部屋：桁行 10.9m、梁間 4.6m、切妻造、二階建、平入、棧瓦葺、江戸時代末(推定)
- ・東 塀：総延長 27.5m、土塀(奉公人部屋と一体)
- ・正面門：間口 4.9m、棧瓦葺、江戸時代末(推定)

概 要

中谷家は能登天領黒川村(旧柳田村黒川)の庄屋を務めた旧家である。その住宅は、主屋、離座敷、土蔵(塗蔵、道具蔵、布団蔵)、奉公人部屋及び東塀、正面門等の建造物と石垣や壕、通用門等の屋敷構えから構成される。

主屋は、三列四室の構成で、3つの座敷が仏間を取り囲むように配される大型の民家である。享保 6 年(1721)の建築、天保 4 年(1833)に座敷等を増築、大正 11 年(1922)に茅葺から現状の棧瓦葺に改修された。

土蔵は西から塗蔵、道具蔵、布団蔵が並び建ち、屋根を一体にかけ、1棟とする。塗蔵の内部は総漆塗で、軸部が黒漆塗、柱間にはめ込まれた壁板は 1 階は朱漆塗、2 階は生漆塗の華やかな仕上げとなっている。

中谷家住宅は奥能登の山間部に建つ大型民家で、農業・林業・金融業など中谷家の経済活動の伸展に応じて主屋を拡張するなど、屋敷が整えられた過程が明らかにされており、能登地方の民家の変遷を理解するうえで重要である。

# 中谷家住宅 位置図



広域



詳細



中谷家住宅 全景俯瞰



中谷家住宅 主屋



中谷家住宅 離座敷



中谷家住宅 土蔵（塗蔵・道具蔵・布団蔵）



中谷家住宅 奉公人部屋及び東塀



中谷家住宅 正面門



主屋 内観



土蔵塗蔵 内観